

地球を求う未来の電気

山本 桜子

私が生まれた時からパソコンや携帯をはじめ、テレビや電子レンジ等の電化製品が普及して、世の中はとても便利だった。現代の生活において電気は既に欠かせない存在になっていった。

そこで、電気について調べてみた。私たちが使っている電気は、発電所から家庭へ届けられている。石炭、液化天然ガス、原子力、

水力など、それぞれ発電方法の長所を活かしてバランスよく組み合わせ、電気をより安定して使えるようにしているらしい。そのエネルギー資源の大部分は輸入に頼っているということや石油や石炭はもう限りがあるということや地球温暖化の原因でもある二酸化炭素をそれらのエネルギーを使うことで大量に排出しているということもわかった。

私たちがこのまま電気を使い続けたらこの先、未来は一体どうなるのだろうか？地球上の

資源を食いつぶした代償を払う時がもうすぐそこに来ていると私は思う。私達は「電気を使っても環境に害を与えない未来」を積極的に考える必要があると思う。

ちようど社会の授業で地球にやさしい燃料電池自動車のことを学んだ。水素と酸素を化学的に反応させ電気をつくりその電気でモーターを回して走る自動車である。利点は電気自動車のように外部から電気を取り入れる必要がないこと、そして、二酸化炭素などがスか出ないということである。

この車が普及したら資源問題と地球温暖化や酸性雨などの環境問題の解決に必ず役立つと同時にエネルギーの安定供給にもつながると思う。

日本は世界一の自動車輸出国だ。だからこそ、電気において優れた環境技術のリーダーを担うチャンスだと思う。

私は、夢や希望がいっぱいつまった電気自動車のカタログを開いた。